

## 本丸に迫る BKV 横領捜査

昨年来から続いている BKV（ブダペスト交通公社）の汚職捜査は、ストライキによって一時中断を余儀なくされていたが、1月26日に各種の公金横領に絡む契約書締結を指示した前 BKV 社長アンタル・アッティラの逮捕にまで進展した。この間、アンタル社長時代の不明瞭な顧問契約が次々と明るみに出て、汚職の構造が明確になりつつある。しかも、首都ブダペスト社会党の実力者で、副市長として BKV の監督責任者だったハジョー・ミクローシュの横領関与が明らかになり、次第に社会党と SZDSZ の有力政治家が BKV を通して資金を吸い上げてきた構造が解明されようとしている。政権交代を控えた今、警察幹部も次第に社会党から FIDESZ へと足場をシフトすべく、権力汚職の捜査に力を入れ始めたようだ。

### アンタル・アッティラ社長時代

ブダペスト市の社会党の実力者ハジョー・ミクローシュは、副市長として 2006 年に公営企業管理の責任者に任命された。ハジョーは BKV の経営陣の一新を主張して、公募なしでアンタル・アッティラの新社長就任を議会に承認させた。こうして、2007 年 1 月から BKV のアンタル社長時代が始まった。

当初は BKV の収入増加のために各種の政策を実行したアンタルだが、次第に BKV 資金の横領に励むようになった。その最初の事件は、2007 年暮れの中古バスの買入れ入札である。この入札には Alfa Busz だけが入札したが、この会社にアンタルの息子が関係していることが判明し、メディアの批判もあって、この入札は無効になった。

2008 年初めに暴露された事件だが、中古バスに絡む策略が失敗したアンタルは AAM 社と 5 年のアドバイザー契約を結び、その支払詳細（月額 900 万 Ft、上限総額 25 億 Ft の支払い）を約束した文書が見つかった。もちろん、高額な支払に見合う顧問サービスはないに等しいものだった。

さらに、ブダペスト空港管理会社との共同提携と称して、下請企業を使いながら、BKV および空港管理会社の資金横領を図った。架空の請求書を発行させ、詐取したお金を個人に還流させる手法で、BKV と空港管理会社から多額の資金を横領したのである。この件では、昨年末に BKV および空港管理会社の法務担当責任者が逮捕された。そのうちの 1 人は、オーブダのショッピングモール地下の駐車場で、下請企業の一つから 1100 万 Ft の札束が入ったビニール袋を受け取ったところを現行犯逮捕された。BKV の情報処理担当部長フズィック・ジョルトにも逮捕状が出されたが、オーストリアのスキー場からハンガリーに戻らず、ハンガリー警察は国際手配していたが、2月4日にセグドのフィットネスクラブで逮捕された。空港拡張工事に絡んで、下請業者と共謀した資金横領がかなりの規模で行われているという。

## 退職金スキャンダル

アンタルは社長就任と同時に、ほとんどすべての経営陣を更迭したが、1人だけ居残った人物がいた。それが、8600万 Ft の退職金を受け取りながら、引き続き月額150万 Ft で再雇用され、昨年夏に一躍その名を知られるようになったサライニー・スィラージ・エレオノーラ BKV 人材開発部長である。その後、サライニーは逮捕され、現在も勾留中であるが、経理を通さずに、自分で8600万 Ft の退職金を自分の口座に振り込んだ業務上横領容疑である。もちろん、アンタル社長の承認がなければ、このようなことができるはずがない。まさに濡れ手で粟を掴むように、会社のお金を右から左へと動かしていたのである。その後の捜査で、サライニーは経理責任者でもないのに、役員への高額退職支払を一手に引き受けていたことが明らかになった。

サライニーの銀行口座は逮捕と同時に凍結された。警察の捜査はここ2〜3年にわたる高額退職金支払いの事実と支払根拠の洗い出しに向けられている。今後、会社規定に外れた退職金支払いが判明した場合、BKVは退職金の返還訴訟を起こすことになる。

## 首都社会党実力者の関与

さまざまな横領容疑のなかで、アンタル前社長逮捕の直接容疑は、「2007年1月1日から2008年4月17日の期間に締結した各種の契約によって、会社が重大な損害を被った業務上過失・横領容疑」である。捜査対象になっている各種契約は300余と報告されている。退職金契約以外で具体的に上げられているのは、BKV 会社内のコピー機の状態を調査するために1920万 Ft で外部企業に委託した契約や、社会党の黒幕ハジョー・ミクローシュの秘書ホルヴァート・エーヴァと架空の顧問契約を結び、2400万 Ft を支払った件である。

1月に入って、警察はホルヴァート女史やホルヴァートの契約に関与していた当時のBKV 幹部の事情聴取を行った。2400万 Ft の支払のうち、最初の1000万 Ft の送金を許可したレグーツィ・ミクローシュ元副社長、残りの1400万 Ft の送金を許可した現副社長のボツラ・ティボールが事情聴取を受けた。

問題はホルヴァート女史の上司であるハジョー・ミクローシュである。明らかにこの架空契約はハジョーが企てて、BKV 幹部に指示したと考えられる。ハジョーはブダペスト市の投資関連事業の認可を一手に握っており、その権力は絶大で、ホルヴァート女史はハジョーの片腕となって陳情を捌いていた。実は、ホルヴァート女史とハジョーが男女の仲であることは公然の事実で、ハジョーはヘリア・ホテルの物理療法にしばしば通っているが、治療が終わるまでホテル内のビュッフェでホルヴァート女史が待っているところを何度も目撃されている。ハジョーは離婚して独身だから、不倫というわけではないが、恋人名義でBKVの顧問契約を作り、BKVから2400万 Ft を詐取したのである。もっとも、ホルヴァート女史にはマータイ・ラーズローというパートナーがいるが、このマータイも警察の事情聴取を受けている。

アンタルが逮捕された今、警察の捜査はホルヴァート女史とハジョーに向かうと予想されている。すでにアンタルは横領にかかわったブダペスト市の政治家（ハジョー他）の名前を自白していると言われる。この自白と引き換えに、検察側は拘置所での勾留ではなく、自宅軟禁を容認したと言われている。もしハジョーが逮捕されれば、総選挙を控える社会党に大打撃になる。こうした事態に慌てたブダペスト市社会党は、ハジョーの総選挙立候補辞退を求め、四面楚歌になったハジョーは選挙区および比例区の双方から立候補辞退を表明することになった。明らかにハジョーの政治生命は終わったが、社会党はハジョーの公金横領を解明することなく、トカゲの尻尾切りに忙しい。

ブダペスト市の社会党では、現 **BKV** 社長と手を組む社会党の若手ホルヴァート・チャバと、腐敗にまみれたハジョー一派との勢力争いが続いていたが、予想されるハジョーの逮捕によって、ホルヴァート・チャバが首都の社会党のトップに立つことになる。しかし、ホルヴァートがこの戦いに勝っても社会党の受けた打撃が減じる訳でもないし、**BKV** 現社長も前職の横領事件で捜査対象になっているから、**BKV** 現社長コチシュとの親密さを誇示すれば、墓穴を掘ることにもなろう。

### デムスキー側近の逮捕

2月3日、ブダペスト警察は、デムスキー市長の側近中の側近である個人アドバイザーのメシュテルハーズィ・エルヌー、前 **BKV** 副社長レグーツィ・ミクローシュ、ゼレナーク・ティボール前 **BKV** コミュニケーション部長を逮捕し、さらにホルヴァート・エーヴァおよびそのパートナーのマータイ・ラースローの事情聴取を行った。とくに、デムスキー市長側近の逮捕はいよいよ捜査が本丸に入ったことを教えてくれる点でたいへん重要だ。今後、**BKV** の監督管理の権限を利用した与党社会党と **SZDSZ** の **BKV** 資金の横領が解明されることになる。

デムスキーの個人アドバイザーであるメシュテルハーズィの名札は、ブダペスト市庁舎のどの部屋にも見当たらないが、市庁舎内でもっとも影響力のある1人だと言われている。デムスキー市長の知恵袋として、社会党との政策決定会議や国会議員との調整などを一手に引き受けていたやり手だ。ブダペスト市庁舎の「ラスプーチン」とも呼ばれていた。もともと趣味のクラブバンドでコンサートツアーを始めたが、次第に衣料品やレコード販売ビジネスを手掛け、**FIFRSZ** 政権時代は清掃事業会社を興して政府や自治体からの発注を受けて富を築いたと言われている。これまで関係したビジネスは幅が広く、30種類ほどの業種の仕事に手を出した人物である。

メシュテルハーズィの政界との繋がり、当時の **SZDSZ** 国会議員メーチ・イムレの娘と結婚したところから始まった。メーチはその後社会党に移ったが、それはメシュテルハーズィの人脈が広がることを意味した。顔が広く、ビジネスの才に長けるメシュテルハーズィは、有力な政治家とも親密な関係を結び、とくに社会党の公安警察担当大臣スィルヴァーシ・ジョルジュとは緊密な関係を結び、社会党と **SZDSZ** の政治家を仲介するフィクサー

の役割を果たすようになったのである。

2000 年前後にデムスキーはメシュテルハーズィと知りあい、ブダペスト市の政治に引き込み、SZDSZ を代表して社会党のハジョーのパートナー役に仕立て、そこからハジョーとメシュテルハーズィによる BKV 管理・監督時代が始まった。

BKV の役員人事をブダペスト市議会ではなく、与党議員が 3 分の 2 を占める経済委員会で決定するというアイデアを編み出したのも、社会党のハジョーではなく、メシュテルハーズィだと言われている。国会議席をもたないメシュテルハーズィが、国会で何度も目撃され、社会党と SZDSZ 議員との協議の場に加わっていたことが証言されている。それほどメシュテルハーズィは影のフィクサーとして力をもっていた。

昨年 SZDSZ 党首の交代劇でもメシュテルハーズィは党首に選出されたレトケシュ陣営のために奔走し、現在進行中の SZDSZ と MDF との選挙協力推進でも大きな影響力を行使していると言われている。まさにこのようなフィクサーが、しかもデムスキーが一番信頼を置いている側近が、BKV スキャンダルの政治的な元締めとして逮捕されたのだから、デムスキー市長にとっても大打撃である。市長を辞任すべきほどの重大な責任がある。メシュテルハーズィ逮捕が SZDSZ に大きな衝撃をもたらしたことはもちろんだが、社会党もまた今後予想されるハジョー逮捕に備えることが必要になった。しかも、ハジョーだけで収まるのか、さらに首都の社会党幹部にも嫌疑が及ぶことになるのか。もしそうなれば、首都の社会党は壊滅的な打撃を受けることになるだろう。

## 腐敗は底なし

BKV を舞台にした横領スキャンダルは、氷山の一角である。巨額の資金をつぎ込んで建設されている地下鉄四号線に絡み、どれほどの金政治家や実業家に横領されているか見当もつかない。このプロジェクトは最初から疑惑だらけのものだ。大成建設グループが最安値の入札を行ったのに、入札前にすでに落札業者は決まっていた。建設前から利権や横領のスキームが詳細に描かれていたと考えるべきだろう。そうやって、建設費は当初計画の 3 倍に膨れ上がり、完成も大幅に遅れることになった。巨額横領の付けはすべて国民に回される。現在の警察・検察に地下鉄プロジェクトを捜査する力はないだろうが、はたして FIDESZ 政権がこれにメスを入れるのか、興味深いところである。

さらに、現 BKV 社長コチシュ・イシュトヴァーンがハンガリー電力 (MVM) 社長時代に締結した数々の不明瞭な契約が、現在もなお捜査の対象になっている。MVM の資金流出 (損失) 額は BKV の横領額をはるかに超えるものであるだけに曖昧な決着は許されないが、これも FIDESZ 政権下での捜査に任されることになるだろう。

(関連記事は、<http://morita.tateyama.hu> を参照されたい)